

困難であるポイント

(第3期・第4期とも12市町村ずつ、22市町村)

- 未接種者が把握できない: 台帳の未整備(4市)
- 繰り返しの個別通知を予定していない(6市町)
 - 財政上の問題で不可能
 - 必要と感じていない
- 市町村担当者の認識不足(2市町)
- **学校との連携が不足・困難(16市町)**
 - 「学校における麻しん対策ガイドライン」が遵守されていない
 - 予防接種は保健行政の仕事であるという学校側の意識
 - 市町村の担当者が、学校との連携の必要性を感じていない

困難であるポイント(都内6市町の特徴)

- 八王子市、昭島市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町、八丈町の第4期における特徴:
 - 高校に対する市町村からのアプローチは全くされていない
 - **第4期における学校との連携を、市町が積極的に検討していない=検討できない**
 - 都内は都立高校と私立学校が約半分ずつ
 - **高校が多岐にわたりすぎて対応が不可能(高校も生徒の住所地が多岐にわたるため、住所地ごとの対応が不可能)**
 - 都の教育庁と市町間での情報共有・連携がない
- 東京都の第4期:
 - 市町村特別区と高校の連携よりも、それぞれの独自の努力が必要か。
 - 大都市圏では同様の傾向が予想される。